

第50回大淀大会 大会規定

- 1 チームの登録選手は、中学生の部は11名以上25名以内とする。小学生の部は9名以上20名以内とする。ベンチ入り20名とする。
- 2 出場選手は令和7年8月末日現在連盟への登録済みの者に限る。
- 3 審査証は当該年度発行のものとする。
- 4 オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみがベンチに入ることが出来る。但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)及び審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間に合った場合は、審査の上でベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間に合った場合は、審査の上その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。(合同チームは自チームのユニフォームとする。)
- 7 試合開始予定時刻60分前までに試合球場に到着し、直ちにオーダー表5部、投球回数記録副表3部および大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 8 オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 9 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
- 10 試合方式など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間を超えた場合、新しいイニングには入らない(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。
 - また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
 - 試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能となった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2)4回終了時(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回表終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)決勝戦のみ、7回終了後、同点の場合あるいは試合開始から2時間を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
 - (競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
 - ・小学生の部
 - (1)各試合6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分を超えた場合、新しいイニングには入らない(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
 - 試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能となった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2)4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)決勝戦のみ6回終了後、同点の場合あるいは試合開始から1時間40分を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
 - (競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
- 11 **中学生投手の投球数制限ガイドライン、小学生投手の投球数制限ガイドライン 2022 年版に準じて投球数制限とする(連盟ガイドライン参照)**
- 12 (1)監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達は認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)
- (2)守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
- (3)内野手が2人以上投手のところにいった時も1回に数える。
- (4)指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
- 13 1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
- 14 監督、コーチ及び選手は、審判のジャッジに対して、絶対に服従し、抗議することを厳禁する。ただし、ルール適用についての確認は、監督または問題の当事者のみが、審判に説明を求めることができる。この場合「3分以内」に規制する。
- 15 監督またはコーチが投手に指示などをする時はマウンドのところで行うこと。(ベンチから駆け足で)
- 16 二塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 17 ボール回しをするときは一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 18 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 19 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付ヘルメットを着用すること。

- 20 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具《マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ（一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く）》2組を揃えること。
- 21 ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 22 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 23 グランドの都合で大会トーナメント規定が別に規定されている場合は、それに従うこと。
- 24 ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
- 25 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
- 26 試合前のシートノックは、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
- 27 試合中の負傷に付いては、主催者側でも応急処置を行うが、それ以上の責任は負わない。
また、賠償事故についても責任は負わない。（出場チームは、チーム賠償保険等に参加していること。）
- 28 大会冊子掲載選手とオーダー表記入選手が異なる場合、大会本部の登録役員・選手名簿に記載された者を大会出場可能選手とする。
- 29 その他、本規定に定めがないものは、（公財）日本少年野球連盟の規定による。

参考

野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームとならない限り、コールドゲームは、球審から打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1)ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2)ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレーク実施細則》 決勝戦のみ

(1) 特別規則

(イ)小学生の部は6回、中学生の部は7回、あるいは試合開始から、小学生の部は1時間40分、中学生の部は2時間を超えて（いずれか早い方）両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ)打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。

(ハ)この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。

(ニ)この場合の代打および代走は認められる。

(2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。

・完全試合は認めない。

・無安打、無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。

・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。